

防災・減災体制の強化

アナ： 「市長が語る 2025 三島」第 17 回の今日は、「防災・減災体制の強化」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 静岡県は、南海トラフ巨大地震のリスクがあると言われておりますが、最近ニュースで南海トラフ巨大地震の新しい被害想定が公表されたと聞きました。どのような内容なのでしょうか。

市長： 国が本年 3 月に南海トラフ巨大地震の新たな被害想定を公表しました。これまでの被害想定では、南海トラフ巨大地震での三島市の最大震度は 6 弱とされていましたが、新たな想定では三島市の想定震度が 6 強となりました。

アナ： 最大震度が 6 弱から 6 強になって、想定震度が一段階上がったということですね。それによって、市や市民の防災対策はどのように変わるのでしょうか。

市長： 国の新たな被害想定公表を受けて、静岡県では 2026 年度中に第 5 次地震被害想定を公表する予定となっており、三島市の防災計画の見直しは、県の第 5 次地震被害想定公表の後になります。想定震度が一段階上がったことにより、倒壊家屋の想定件数の増加などが予想されますが、市民のみなさんのやるべきことはこれまでと変わらず、いつ起こるかわからない巨大地震に備えることです。

アナ： 巨大地震への備えと言いますと、どのようなことがありますか。

市長： まずは、命を守るためには、ご自宅の耐震補強が大変重要です。能登半島地震でお亡くなりになられた方のうち、約 4 割は建物などの下敷きになったことが原因と言われております。

三島市には、無料で建物の耐震診断を受けることのできる制度や、耐震補強に対して補助金を交付する制度がございますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

アナ： 特に耐震診断については無料ということですので、ぜひご利用いただきたいですね。その他にもおすすめの制度や補助はございますか。

市長： はい。三島市では、強い揺れを感知するとブレーカーが自動で落ちる機能を持つ「感震ブレーカー」の設置に補助金を交付しております。地震によって電気配線が破損すると、停電後の電気復旧の際に火災が発生することがありますので、火災から大切な財産を守るため、感震ブレーカーの設置を検討していただきたいと思います。

アナ： 確かに、地震で停電して混乱している最中に、ブレーカーを落とすということまでは考えが及ばないと思いますので、感震ブレーカーがあると助かりますね。

他にも、日ごろから災害に対して備えておくべきことはありますか。

市長： まずは、お住まいの地域にどのようなリスクがあるかを確認してください。
三島市では、様々なハザードマップを1冊にまとめた「三島市総合防災マップ」に加え、Web版のハザードマップも公開しております。お手持ちのスマートフォンなどで、お住まいの地域の想定浸水深や地震による最大震度などを確認していただくことができます。

それから、市民のみなさまには7日分の備蓄をお願いしております。
食料や飲料水はもちろんのこと、見落としがちな携帯トイレについても備蓄を進めていただき、大地震が起こっても、避難所に行くことなく、自宅で生活できるよう準備を進めていただきたいと思います。

アナ： 体育館での避難生活は大変そうですから、災害時でも自宅で過ごせるように、耐震補強や食料や携帯トイレなどの準備しておくことは大事ですね。

本日は、三島市の防災・減災の取り組みについてお聞きしました。

ありがとうございました。

市長： ありがとうございました。